

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172500233		
法人名	有限会社 イマージュ		
事業所名	グループホーム夢(夢)		
所在地	余市町黒川町19丁目13-2		
自己評価作成日	令和1年12月20日	評価結果市町村受理日	令和2年3月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&lievosyoCd=0172500233-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和 2 年 2 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

レクや外出などでユニット間の交流をする機会を設けたり、月1回のパンバイキングや季節に応じた食事の提供をして、張り合いのある生活をしていただけるよう努めています。
約半数の職員が10年以上勤務し、入居者とのなじみの関係を築いています。
また、入居者とのコミュニケーションを密にし、明るく笑いのあるホームづくりをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はバス停から近く、周辺には大きな桜の木がある高校や協力医療機関、非常時に協力関係を構築している複合型介護施設、住宅街が建ち並んでいます。開設時からの職員や長期勤務の職員が多く、利用者や家族、地域住民と良好な関係を築いています。夏祭りを夢交流会とし、地域や家族の参加を得て総勢60人程が集っています。行事なども多彩で、夏の終わりを楽しむ涼風会、時には家族の参加もある食事会、毎月、利用者の好みそうなおやつを用意しての茶話会、小樽の天狗山への小旅行、仁木町へのぶどう狩り等を企画しています。職員は利用者を自分の親に置き換え「買い物に行きたい」などの要望に出来る限り応えたい、利用者の笑顔が見られる行事を続けて行きたい、さらに「グループホーム夢」で暮らせて良かったと思って頂きたいと、「入居者の意に沿い、こころを受けとめ、温かく、地域と共に生きがいある生活環境を提供します」を理念として掲げ、実践に向けて日々取り組んでいる事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が	合同会社 r			
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りの際、理念を読み上げて実践している。	法人理念を事業所の基本理念としています。理念を事業所内に掲示し、さらにパンフレットや事業所便り、ホームページに掲載しており、内外に事業所の目指す姿勢を示しています。入社時には、理念の意義や方向性を説明しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事で保育園児との交流や、運営推進会議で地域の方々の参加や、地域の関係機関による講義の開催をしている。	事業所の夏祭りには、地域や家族の方々を含め総勢60人程が集い、それぞれに交流の機会になっています。町内会の子供神輿の休憩所として場所を提供し、また、保育園児がクリスマス会に来訪し、遊戯披露後にプレゼント交換があり、利用者の笑顔が増す機会となっています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの活動を掲載した広報誌を、家族や地域の方、関係機関へ配布している。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員や家族から意見などを聞いている。検討が必要なことは、各委員会や全体会議で検討をしている。	運営推進会議は、関係者の出席を得て定期的に開催しています。クリスマス会等の行事と同日開催し、利用者の様子を見てもらったり、薬剤師による講話で勉強会を行う中で、各出席者から出された質問や意見に丁寧に答えています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広報誌の配布や運営推進会議への出席をしてもらったり、何かあれば相談をしている。	事故報告書や認定更新時等は、管理者が担当窓口に出向き、さらに事業所便りを郵送しています。運営推進会議に出席の行政や地域包括職員とは事業所の現状を共有し、アドバイスや情報を得ています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の全体会議で身体拘束等の振り返りを行い、意識付けをしている。	身体拘束や虐待をしないケアの周知徹底を図っています。指針やマニュアルの整備、毎月、身体拘束等適正化委員会や研修会を開催し、会議等でグレーゾーンを含め、不適切なケアを行っていないかを話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行ったり、毎月の全体会議で虐待や不適切ケアについての振り返りを行い、意識付けをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などあれば参加して、必要に応じて活用する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をし、理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を聞いたり、面会時に確認している。	家族には毎月、写真を添え利用者の様子を報告しています。さらに定期的に事業所便りや運営推進会議の議事録を送り、ホームページなども活用して事業所の活動状況を伝えています。個人情報の保護にも配慮し、事業所便りに名前を載せないで欲しいなどの家族の要望に応じています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議等で意見を聞き、反映させている。	職員は、各々行事や広報などの業務を担い、運営の向上に努めています。施設長や管理者は日々の業務や会議、自己評価に沿った面談等で、職員から運営やケア等の要望や提案を傾聴し、業務改善に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議や個別で話を聞き、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修をしたり、外部研修に参加できる機会を設けており、参加報告もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	余市グループホーム連絡協議会や北後志ケア連絡会の会員であり、新年会や研修などで交流している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い、本人と会話して安心できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安なこと等話を聞き、パンフレット等使用して説明し、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	良く話し合いをして、まず必要としている支援を見極め、他の関係機関も含めた連携も考えて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをとって、できる範囲の役割分担をして、職員との関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月近況報告を送付し、面会に来られた時は状況報告をしている。相談があれば常に受けて、支えていくように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出できるよう支援に努めている。	面会者を快く迎えています。家族や知人の電話や手紙の取り次ぎ、馴染みの店への外出支援を行っています。家族の協力で、冠婚葬祭への出席、墓参、外泊等が実現しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、入居者同士がうまくコミュニケーションをとれるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、必要に応じて対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとり、可能な限り本人の希望に添うように、カンファレンスをして検討している。	職員はコミュニケーション能力を高め、会話や生活歴、個別の記録、連絡ノート、家族からの情報等で、利用者を主体とした理念の実践に努めています。状況によっては、ケアプランに反映しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者とコミュニケーションを図り、その際情報を得たり、フェースシート等で把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時や介護記録、入居者からの訴えで把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、家族が面会に来られた時等意見を聞き、見直しをしている。	ケアプラン立案時は、居室担当職員が利用者の要望を聞き取り、家族からは関わりの中で意向を傾聴しています。職員には気づきや提案等を書面で上げて貰い、担当者会議で利用者や家族の希望する支援目標になるよう協議しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やケアプランマップにて状況を共有し、見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物の希望があれば対応し、また家族の方の発表会を見に行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と関わり、協力を得られるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じたかかりつけ医を決めている。不調などあれば相談や受診をしている。	受診医療機関は利用者や家族に一任しています。町外への受診は家族対応とし、町内の医療機関へは職員が同行しています。協力医による2週間ごとの訪問診療や、個別に馴染みの主治医の往診を受けている利用者もいます。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連絡板を作り、情報を伝えて、相談をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前のADLや生活状況の情報提供をしている。入院中は病院、家族と連携をとり、退院後の生活につながるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	日常から検査結果、受診結果を報告している。特変の時には連絡をして、主治医や看護師、家族と相談しながら支援している。	看取りケアへの意向が伝えられたときには、重度化や看取りの対応指針に沿って主治医、家族と方向性を定め、尊厳ある看取りケアを行う態勢を整えています。職員は勉強会等で、その時に備えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けており、ホームのマニュアルも用意している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練をしており、いろいろな想定で行っている。運営推進会議にて、町職員の防災についての講話をしてもらっている。	年3回連絡訓練や日中・夜間の火災想定訓練等の自主訓練を行い、非常時に備えています。震災時の課題を検証し、足りない備品を揃えています。防災ガイドマップで事業所の位置確認を行うなど、防災意識を高めています。	近隣の事業所と災害時の相互協力体制を構築していますが、避難訓練時に消防署の指導や地域住民の参加が望まれます。併せてあらゆる災害やケア時での対応への取り組みに期待します。

Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重するよう、声掛けや対応に努めている。	入社時には接遇研修を開催し、ケアの方向性を意識付けしています。申し送り時は、部屋番号や頭文字で利用者の状態を伝えています。入浴時、排泄時は、格別の注意を払っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望があれば対応し、うまく伝えられない方にも、コミュニケーションをとる中で本人の思いを汲み、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者のペースで過ごしてもらい、意に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた外出着や、普段から本人の希望に合った身だしなみの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や季節に合ったものを提供している。下ごしらえや片づけができる入居者には行ってもらっている。	朝食は事業所内で献立を作成し、昼・夕食は業者から献立と食材が届いています。利用者の協力を得て、食欲に繋がる食事作りが行われています。時にはパンバイキング、出張寿司職人による握り寿司、外食等で、食の楽しみに繋げています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて食べる量を調整し、栄養バランス良く提供している。水分摂取量が少ない方には声掛けし、促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、緑茶でうがいをしていただいている。夕食後は洗淨薬で義歯洗淨を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつ使用、トイレ使用の入居者様は、時間を見計らいおむつ交換やトイレ誘導をして促している。	排泄チェック表や問題点・解決すべき課題等を含んだ排泄ケアチェック表により、個々に応じた排泄支援が行われています。自立度により、左手すり、右手すり用のトイレの利用、見守り、声かけ、誘導を行い、衛生用品を使い分け、不快感の軽減に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行い、必要時下剤を服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	週2回入浴日が決まっているが、拒否や気分が乗らない時は時間を置いたり、足浴で対応している。	入浴は同性介助の要望を受け止め、午前・午後に2人介助も行いながら、ゆず湯や入浴剤入りの浴槽で寛げるよう努めています。状態によりシャワー浴もあります。入浴時には「麺類が食べたい」など、利用者の要望が聞かれることもあり、要望把握の場にもなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせ、休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情があり、確認できるようになっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状況や能力に合わせて役割を行ってもらっている。全体レク、個別レクを状況に応じて提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出喫茶や外食を実施している。本人の希望により、必要があれば家族に相談したりして対応している。	周辺の散歩やイモやカボチャ、枝豆を植えている畑作業を行っています。春には近くの桜の木の下で記念写真を撮影しています。ドライブを兼ねて、小樽の天狗山を観光したり仁木町でぶどう狩りを楽しんでいます。毎月、喫茶店や外食など外出の機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方は自己管理していただき、近くのお店に買い物できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に合わせて、可能な範囲で支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔になるよう心掛けている。季節感が出るよう作品を制作し、展示している。	事業所は改造型であるため、ユニットごとに造作の違いはありますが、温湿度や清掃、採光に配慮があります。パチンコ台が置かれていたり、季節に因んだ飾りや行事写真、紙細工、献立表が掲示されている中で、利用者は、食卓やソファで自分の居場所を得ています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望に合わせ席の移動や、居室で過ごしたい方は居室で過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを使用していただき、居心地の良い生活空間になるよう支援している。	備え付けの押し入れには洋服や日用品が収納され、物干しポールには、湿度対策で濡れたバスタオル類が掛けられています。スペースを活用して座卓や座椅子などの調度品が置かれ、また、家族写真や書き初め等を飾り心地良い空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやエレベーターの設置等をし、安全に自立した生活づくりをしている。		